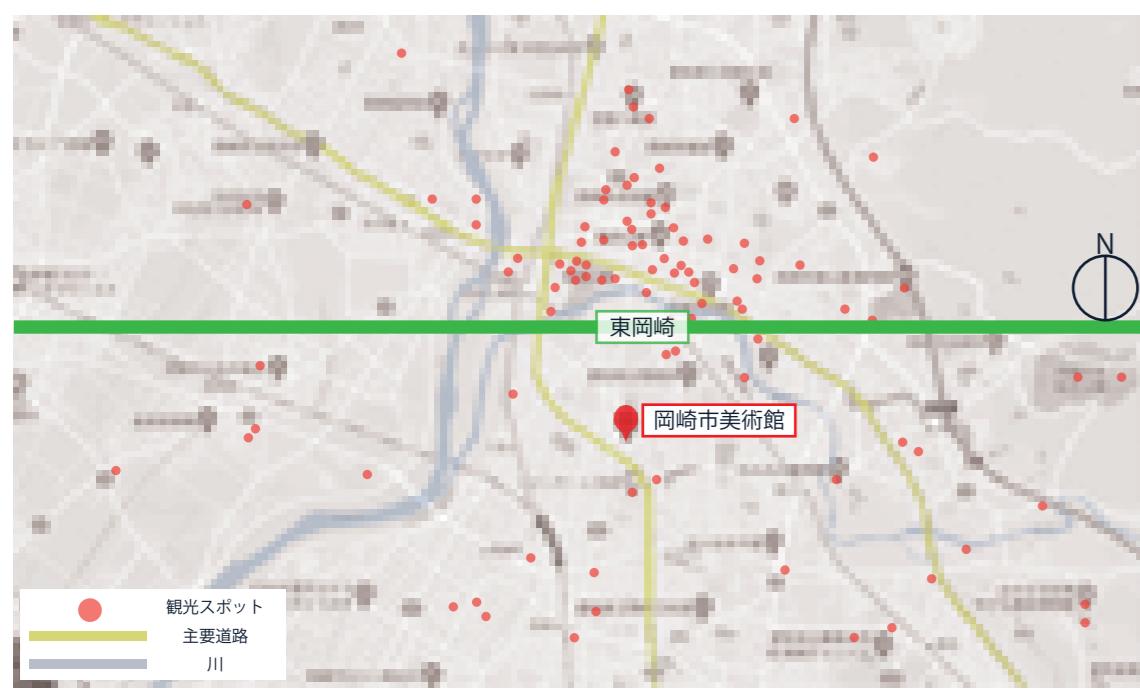


交わる美術館 - 岡崎市美術館リノベーション -



1. 研究背景

- 岡崎の観光スポット (229 件) -

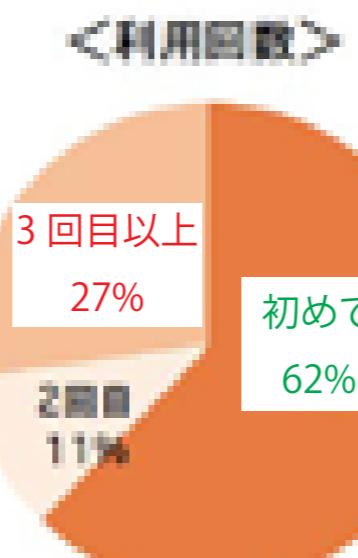
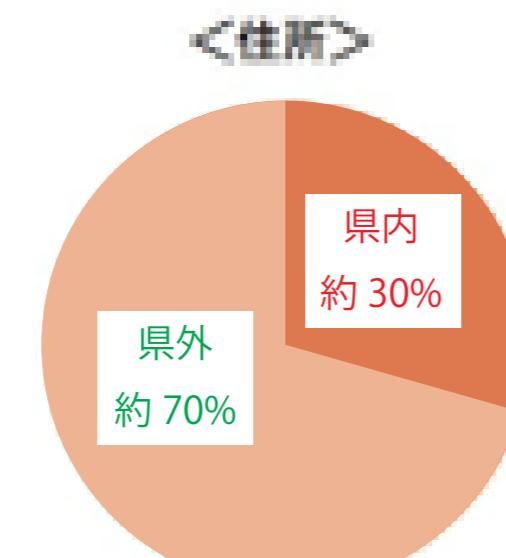


岡崎市は人口約 38 万人の中核中核都市に指定されており、自然豊かな反面、商業施設や観光にも力を入れている。

市の中心の駅である「東岡崎駅」の北側に観光地が集中しており、駅の南側は観光地が少ない。

そこで東岡崎駅の南側に観光拠点を設けることで観光客を南側にも引き込み、市全体に活気が溢れることが望ましいと考える。

- 近年の美術館とまちづくり -



(2013 年時点)

3割のリピート率の高い地元の人々

7割の県外の旅行者

3割の地元の人々と美術館の織り成す出来事を
県外の旅行者が見に来る

↓

市の良さを県外に広める

これまでの美術館の目的→文化財の保管と公開

2000 年以降の美術館の目的→文化財の保管と公開

+ まちづくりやまちの活性化を促すプログラム

- 金沢 21 世紀美術館の取り組み -

- ・美術館を中心にした美術プログラムによる、まちづくりや町の活性化
- ・交流人口の増加による息の長い観光政策

秋元雄史の『美術館の文化プログラムによるまちづくりと文化観光』の論文より、近年の美術館の働きが作品の保存だけでなくまちづくりやまちの活性化を促す働きをしていることが分かった。この働きが岡崎市を訪れる旅行者に良い影響を与え、岡崎市の良さを県外に広めることができる。

2. 目的

文化施設で味わえる非日常気分が暮らしの質を高める

↓

市民の暮らしの質が高まれば、それに気がついた人々が外から訪れる

- 岡崎市美術館を新たにリノベーションすることで -

多くの市民・観光客が訪れる

↓

市民が芸術や文化に触れる機会が増える

↓

市民の暮らしの質を高め、市外の人にも岡崎市の良さを知ってもらう

↓

市の南側にも活気が溢れる

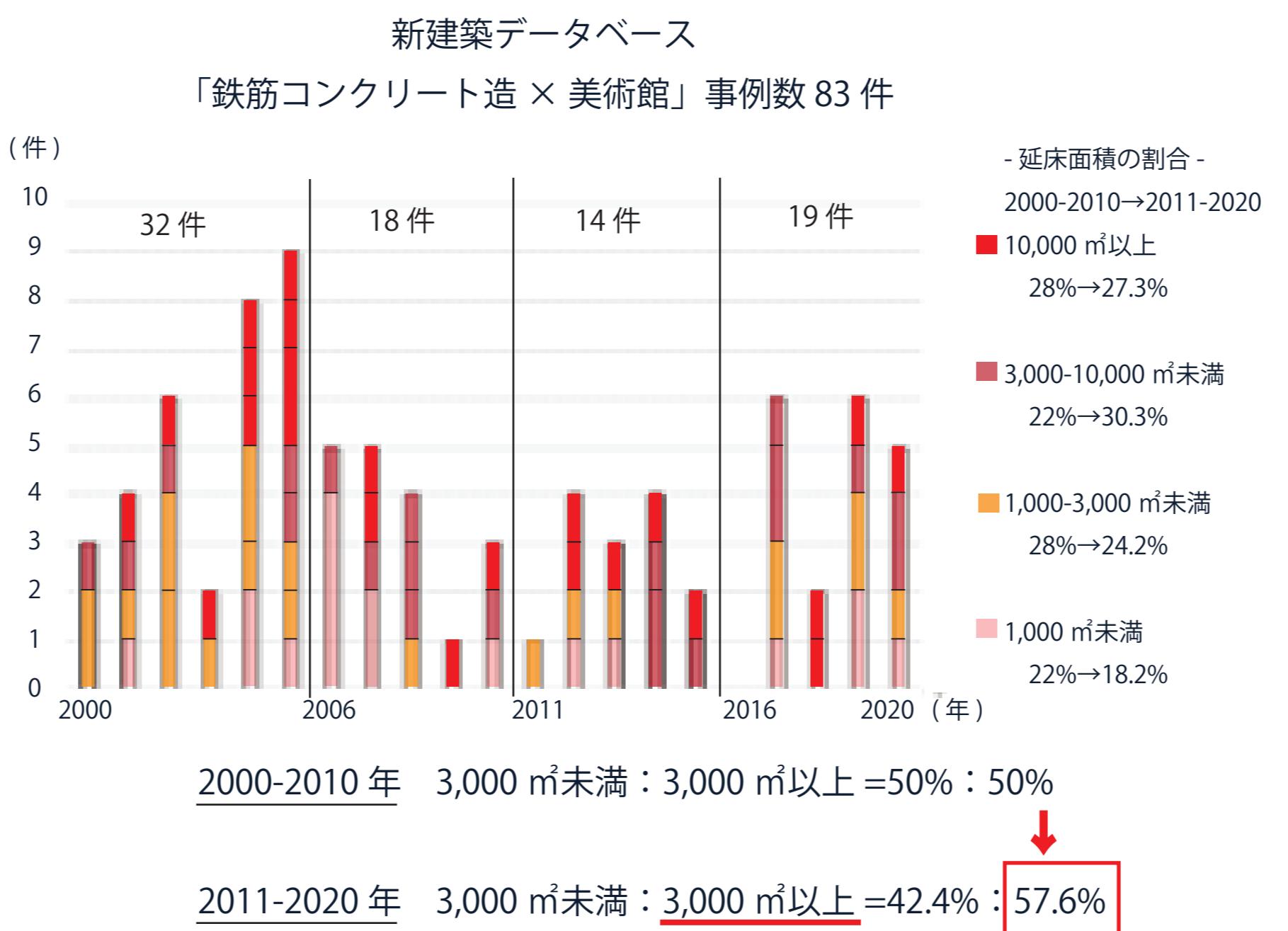
3. 研究構成・方法



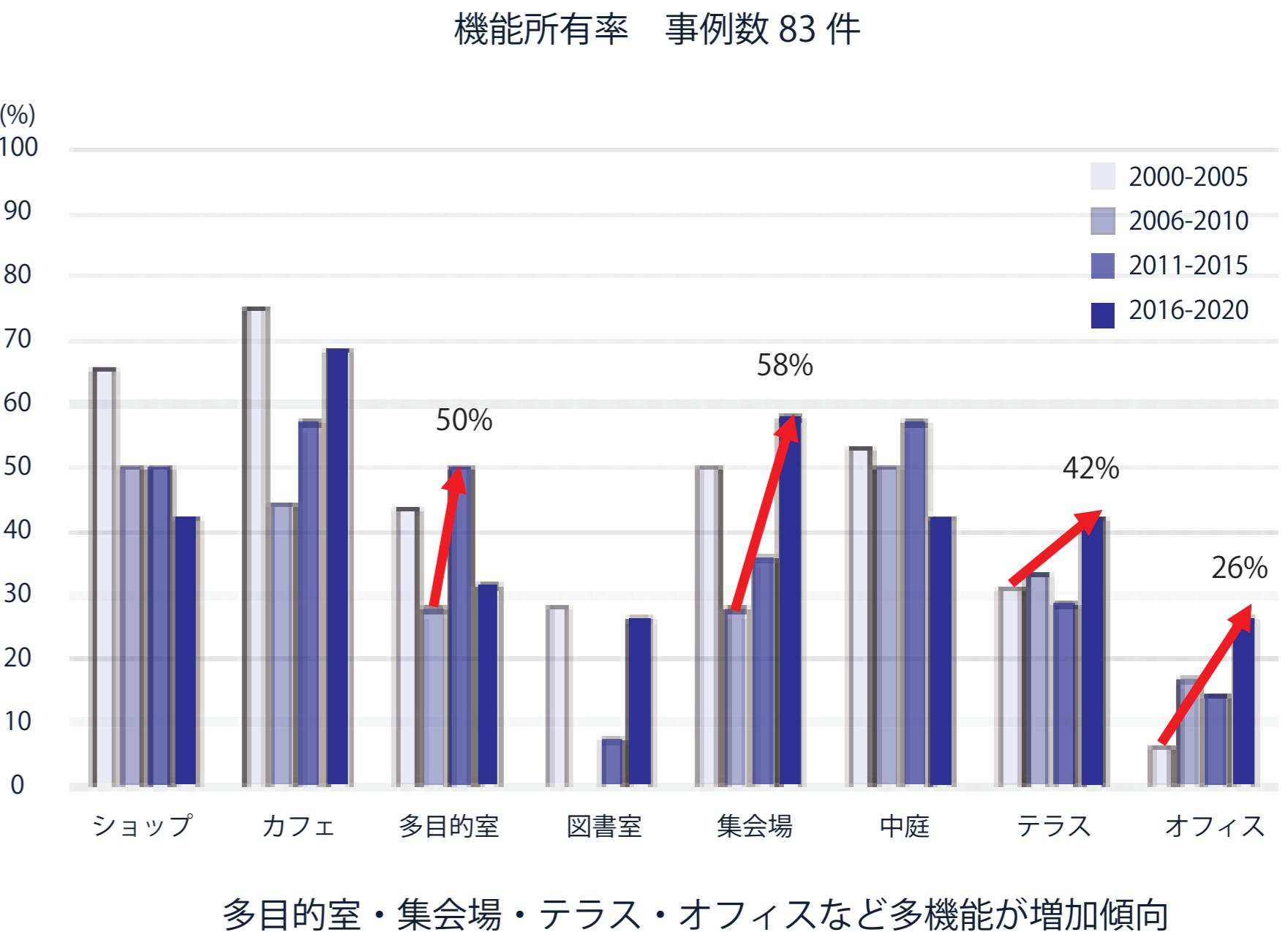
岡崎市美術館をリノベーションするにあたり、「美術館を知る」「市民を知る」の二点について研究を行った。

- 美術館を知るために、新建築のデータベースで岡崎市美術館と同じ鉄筋コンクリート造の美術館を調べ、動線・機能の抽出を行った。
- 市民を知るために、アンケート調査を行った。SNS を利用し配布、Google フォームによる回答収集を行った。(回答者 96 名)

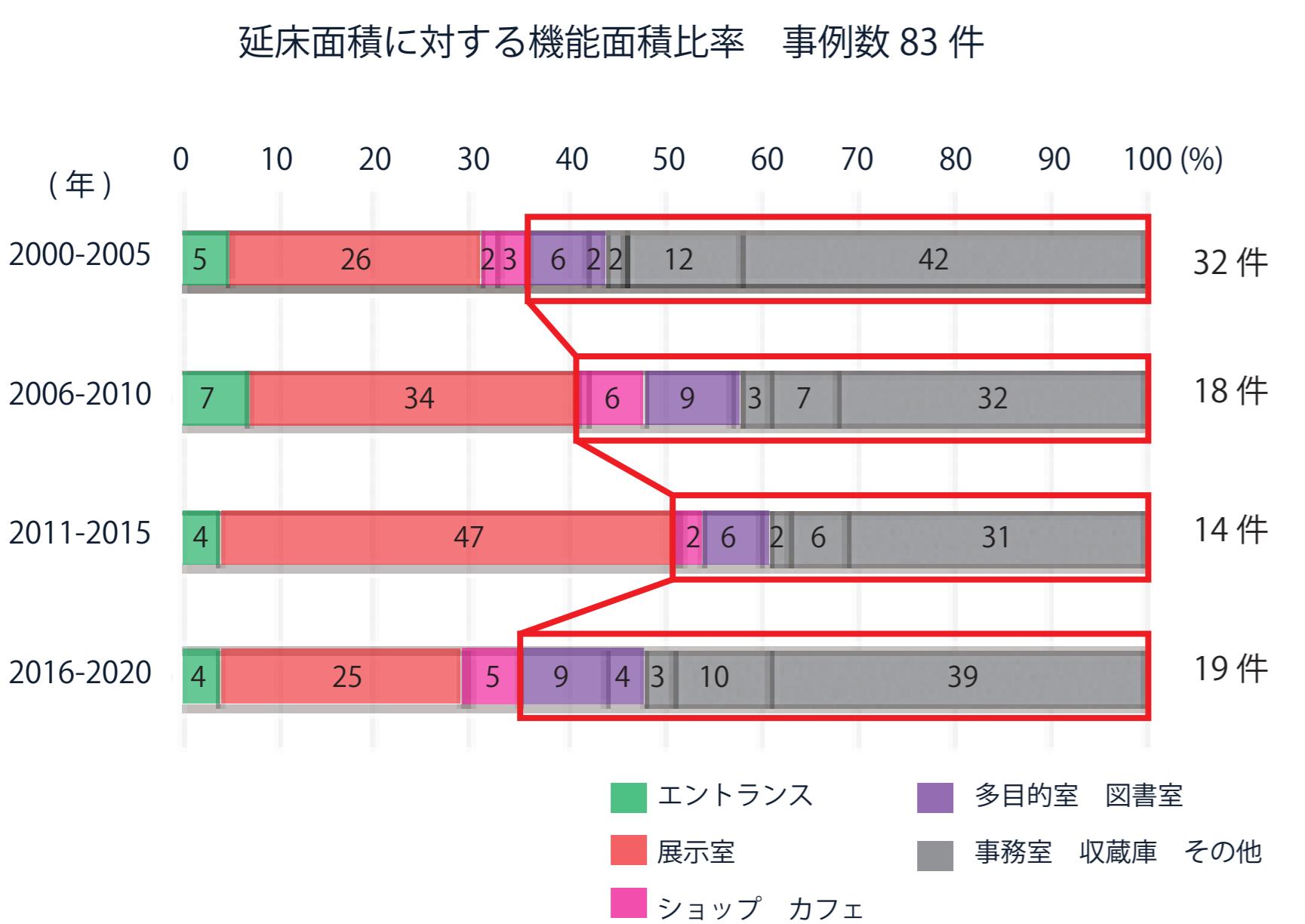
4. 調査結果



鉄筋コンクリート造の美術館の事例は 83 件あった。この表は延床面積ごとに色分けしたものだ。岡崎市美術館の延床面積が 1,969.4 m²なので、それを基準に色分けした。2000 年から 2010 年頃まではそれぞれの延床面積の仕分けが 20% 代で、まんべんなく様々な大きさの美術館があるが、2012 年以降は延床面積の大きい美術館が増えている。
3,000 m²を境に見てみると、10 年で 7.6% ほど増えていることが分かる。



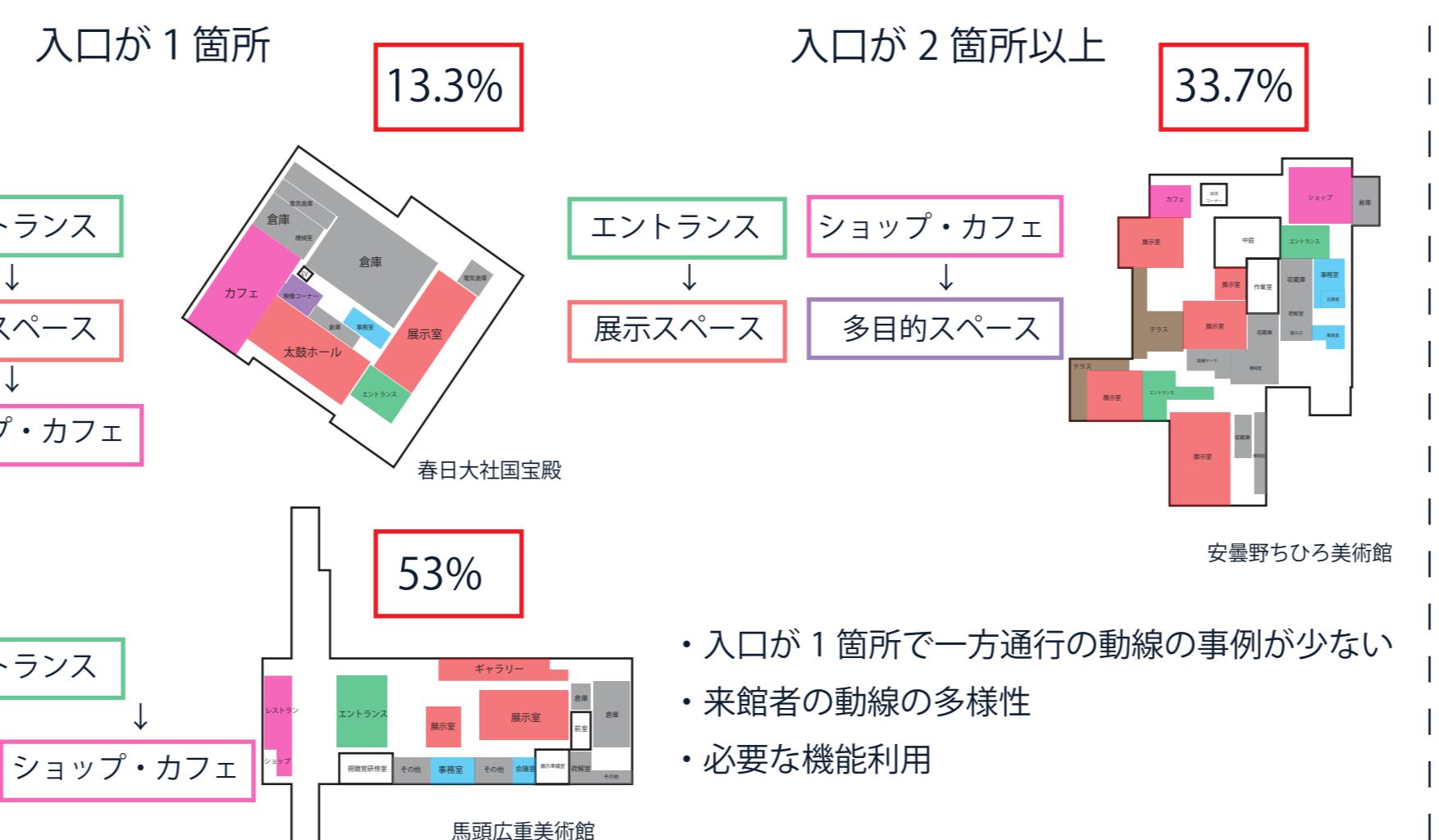
この表は展示室以外の機能を設けている美術館の所有率だ。ショッピングやカフェを置いている事例は比較的どの年も多いが、多目的室や集会場、オフィスなどを置くのは新しい美術館によく見られることが分かる。
↓
新しい美術館は様々な機能を取り入れて、美術鑑賞以外の目的でも訪れる施設とする。



延床面積の増加傾向 × 多目的・その他の機能の増加

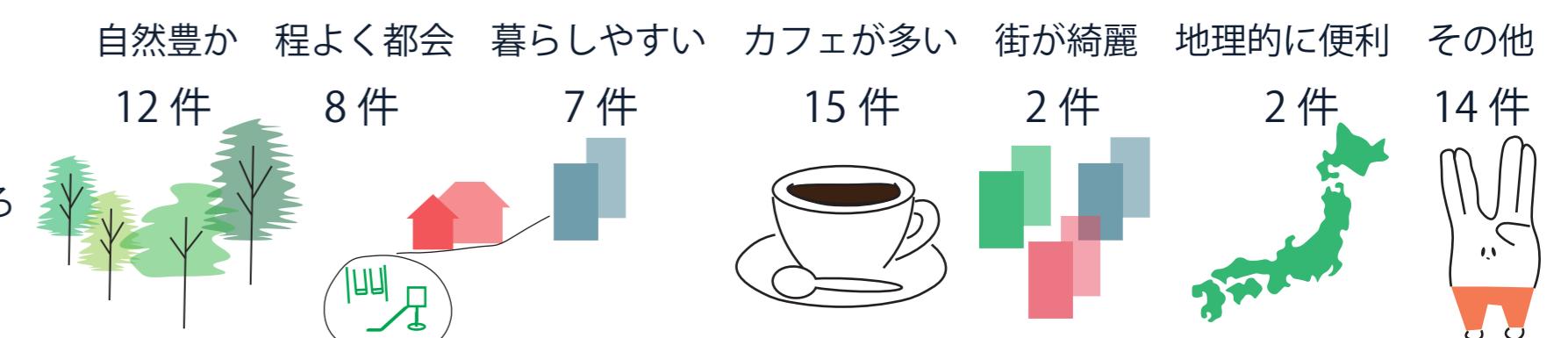
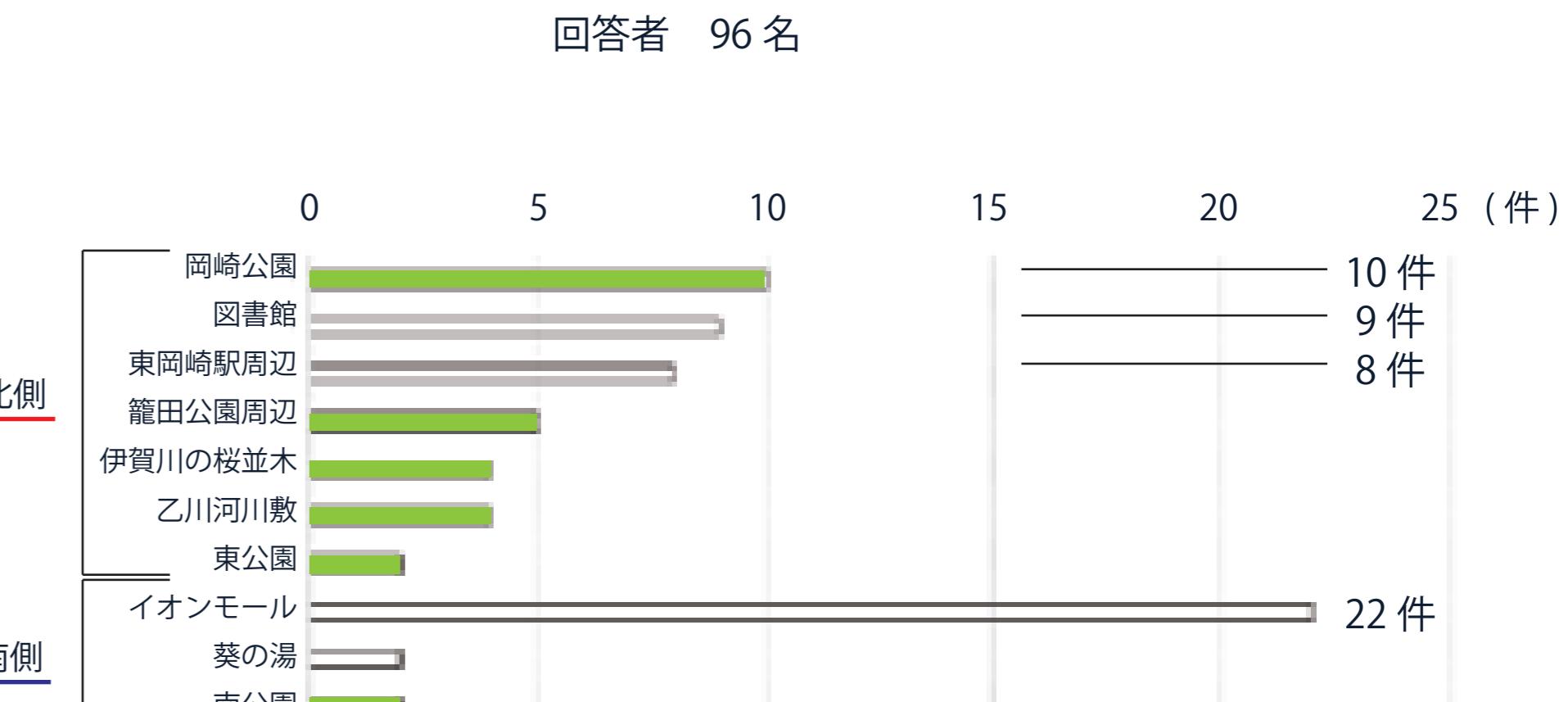
これは年代ごとの延床面積に対する機能面積比率だ。展示室はどの年も大きな面積を占めているが、特に 2011-2015 年が大きい。また、多目的室や図書室、その他の機能（集会場、ホール、オフィスなど）は 2016-2020 年が大きな面積を占めている。近年の美術館の傾向として延床面積の大きい美術館が増えていることから、多目的空間も大きな面積を占めている。このことから、美術館を設計するに当たって、展示室だけでなくその他の機能の働きも重要な役割を果す。

ゾーニングのパターン分け 事例数 83 件



83 ある美術館事例のゾーニング分けをしたところ、入口の動線のパターンが主に 3 種類あることが分かった。入口が 1箇所で一方通行の動線が全体の 13.3%、入口が 1箇所でそこから自由になる動線が全体の 53%、入口が 2箇所以上あるものが全体の 33.7%。このことから来館者に合わせた動線のある空間作りが必要だと考えた。岡崎市美術館も 2 つの建物に分かれているので入口を 2箇所以上設けるパターンにして、人々が利用しやすい建物にする。

岡崎市民へのアンケート調査 「岡崎市でよく訪れる場所 / 好きなところ」(複数回答可)



アンケート調査では、岡崎市民が思う岡崎市でよく訪れる場所と好きなところを分析した。自然が豊かな場所が多いことや暮らしやすい環境が岡崎市の大きな特徴だと言える。

5. 美術館概要



- 岡崎市美術館 -
所在地：岡崎市明大寺町茶園 11-3

構造：鉄筋コンクリート構造
階数：2 階建て

延床面積：1,969.4 m²

1972 年 開館

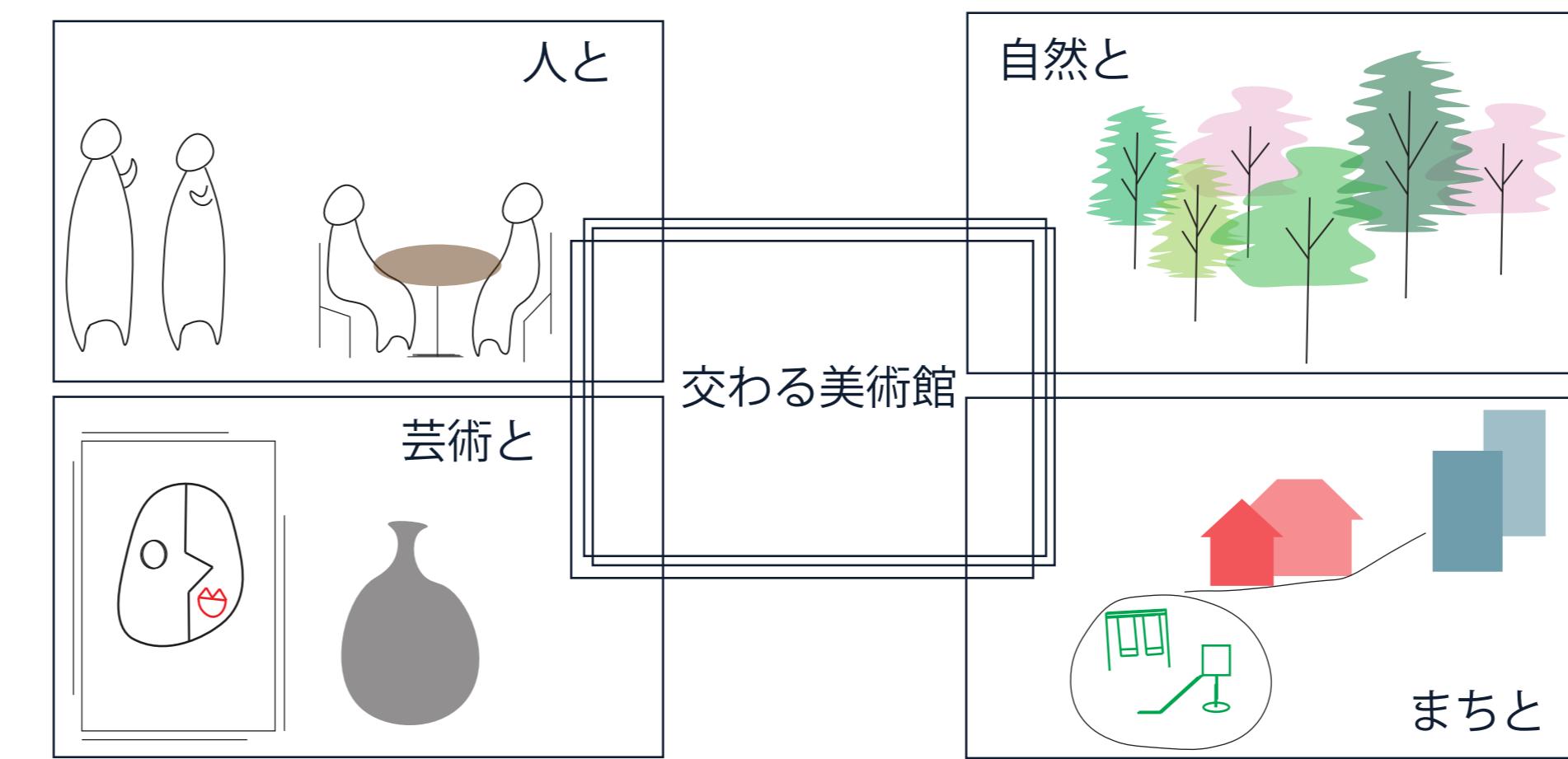
2008 年 旧図書館が美術館の東館になる



- 建物の状況 -

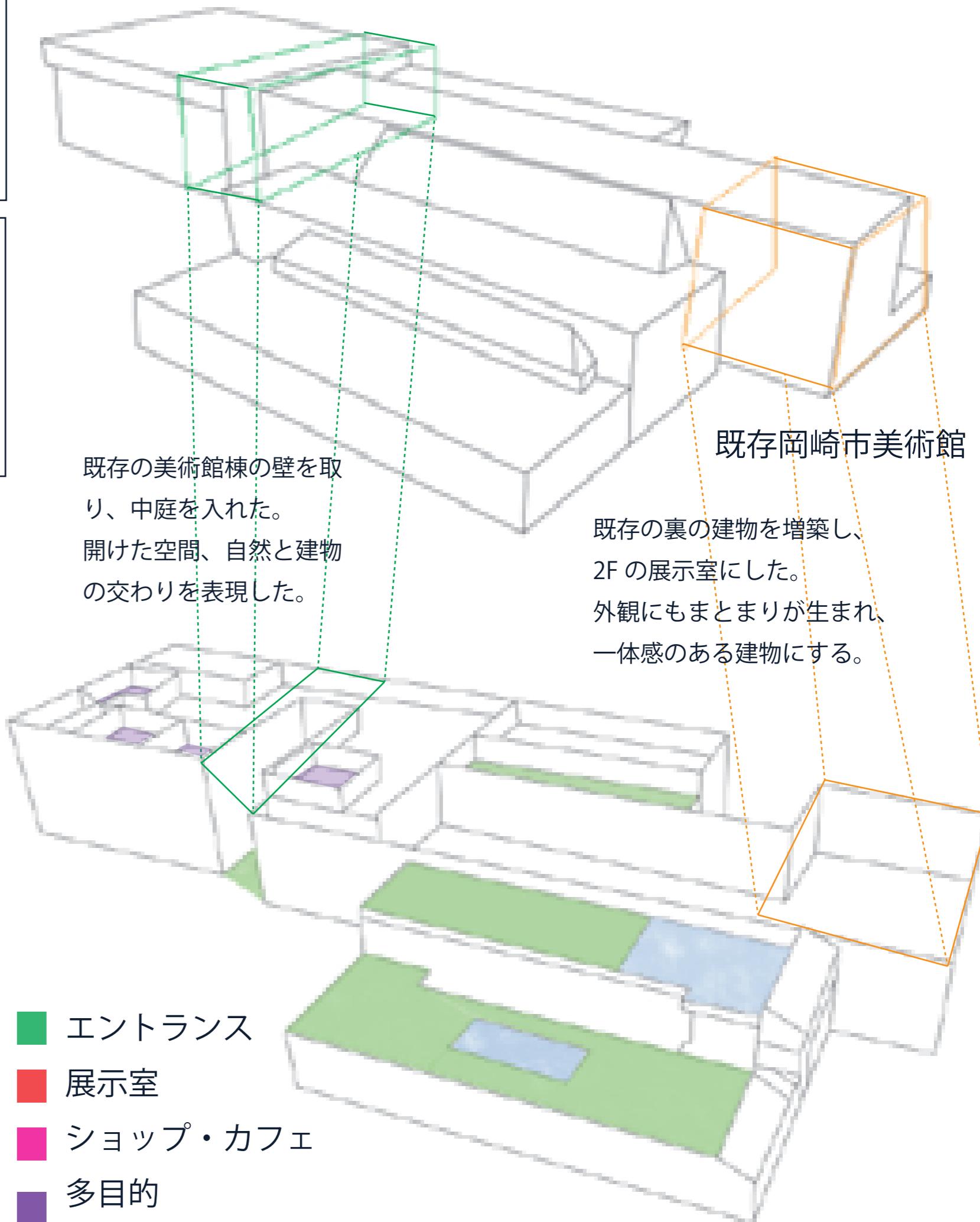
- 内外装共に劣化が見られ、レンガが剥落しているところもある
- 利用者数の減少
- 高齢者の交流の場になっている、老人会の作品を飾る機会も

6. コンセプト

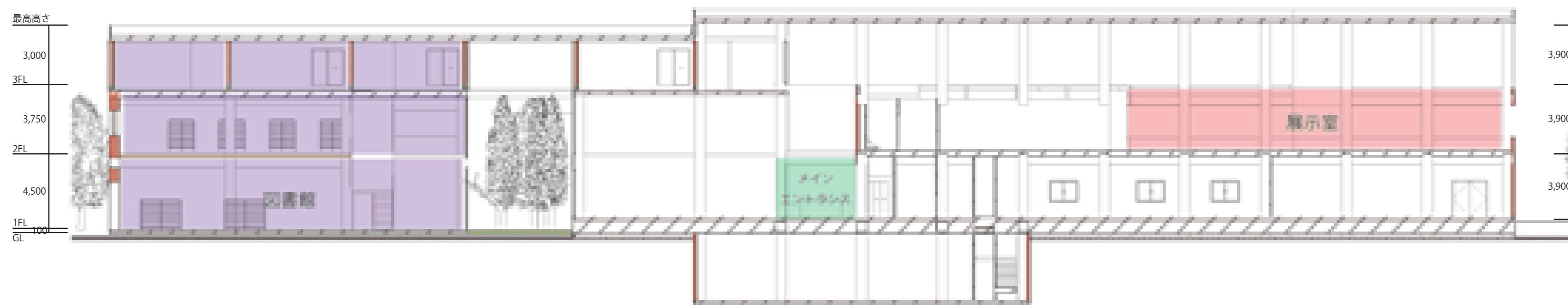


自然と建物と人が交わる空間を作る
様々な世代の人々が交流できる場所
文化財や作品の保管だけでなく街とつながる美術館

7. ダイアグラム



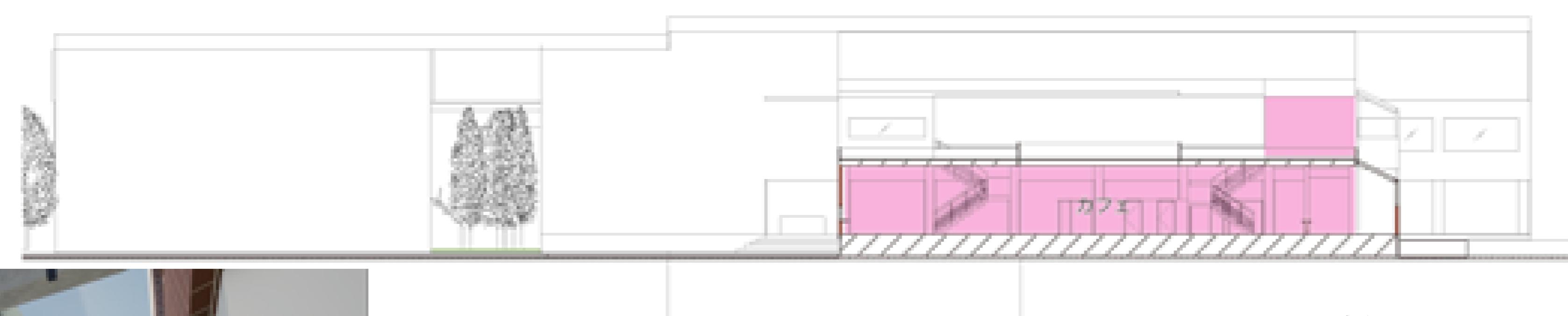
北東から見る



A-A' 断面図 1/200



メインエントランス



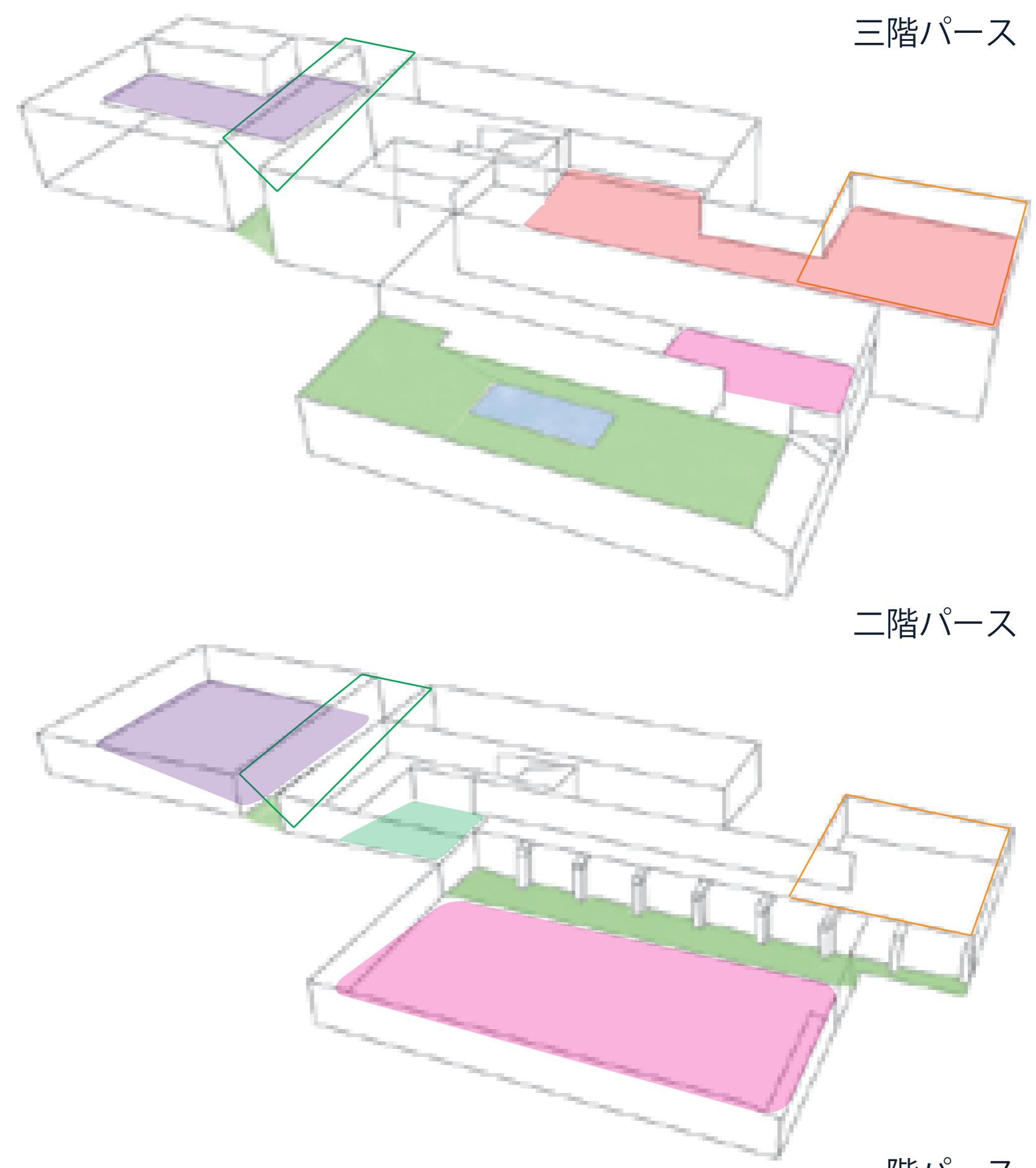
B-B' 断面図 1/200



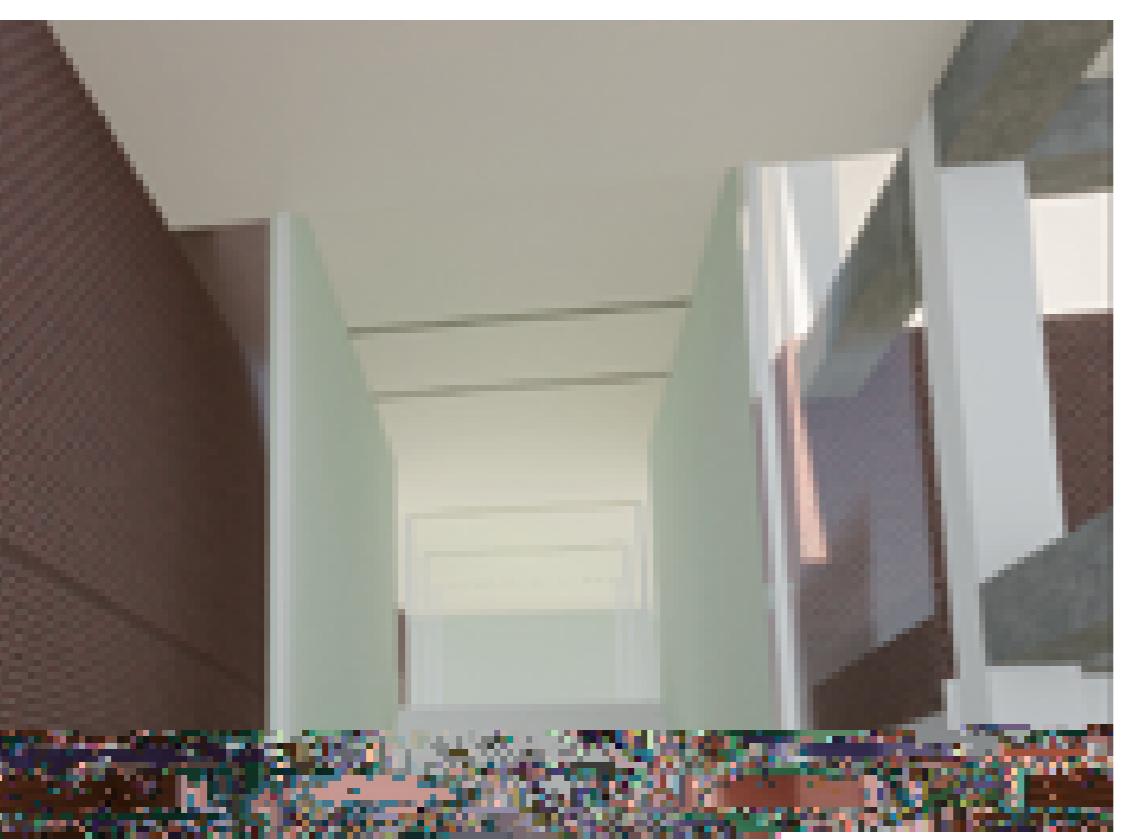
ワークショップ側エントランス



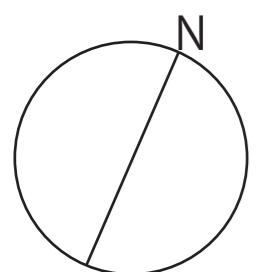
C-C' 断面図 1/200



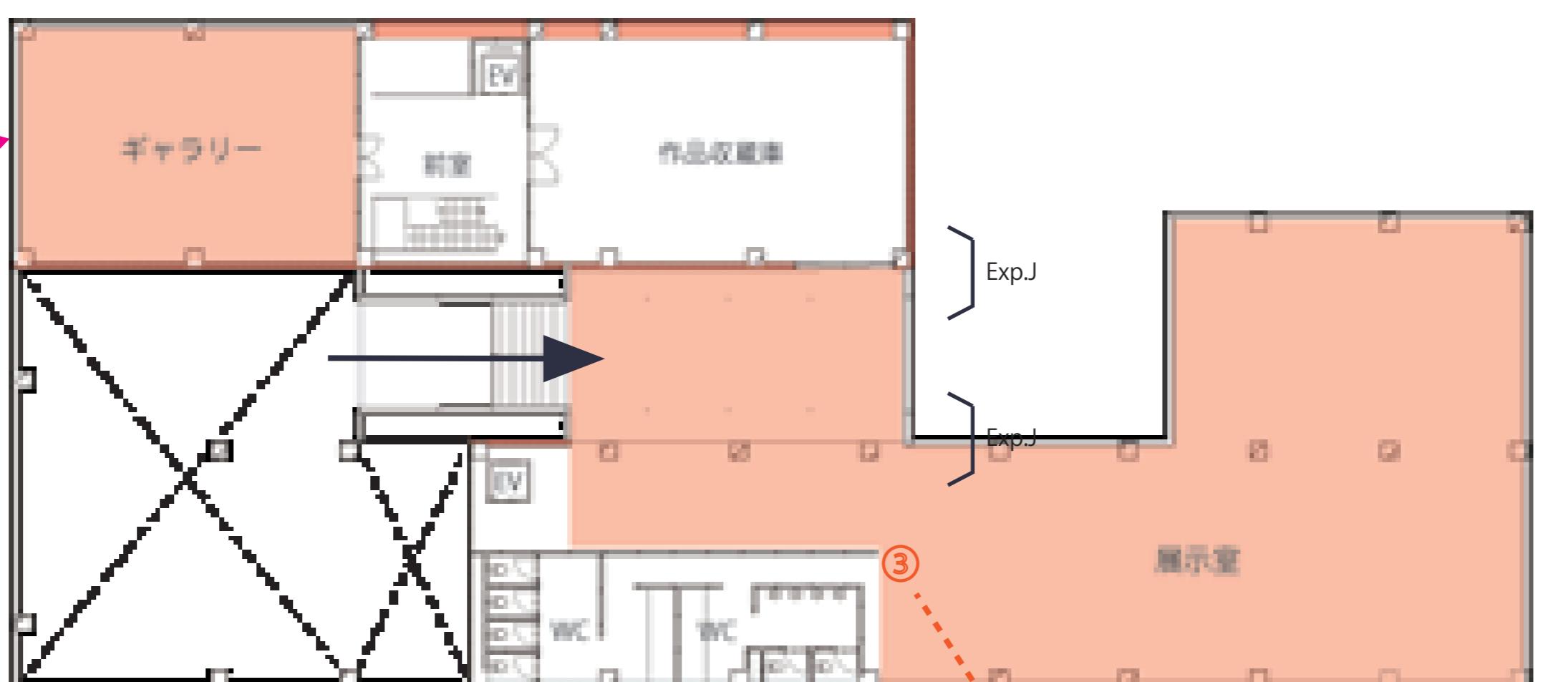
一階パース



大階段を上がって、展示室に入る
半透明の壁からたくさんの光を受けた階段で非現実的な空間を作る



二階平面図 1/200



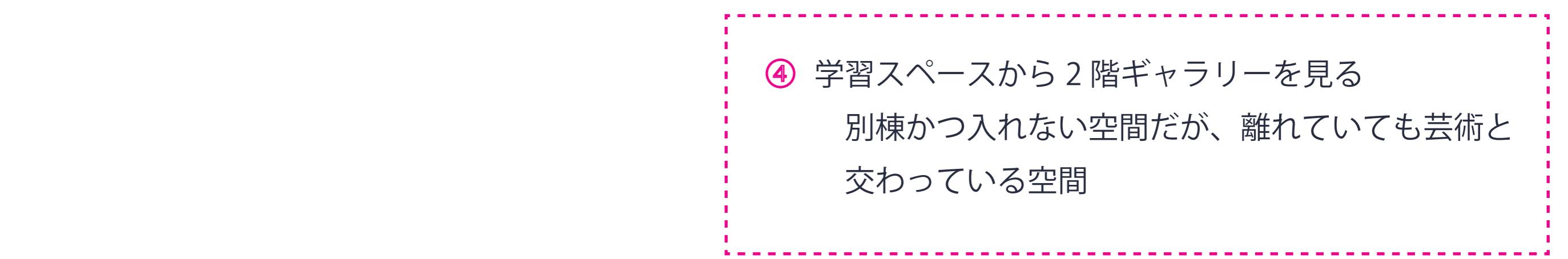
③ 展示室からカフェを見る
別棟になるが建物と人のつながりを感じる



カフェの2階席を設けて目線を変える
賑やかな空間を抜け、少し落ち着いた空間で緑を感じる



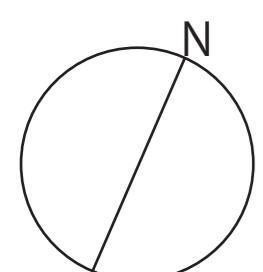
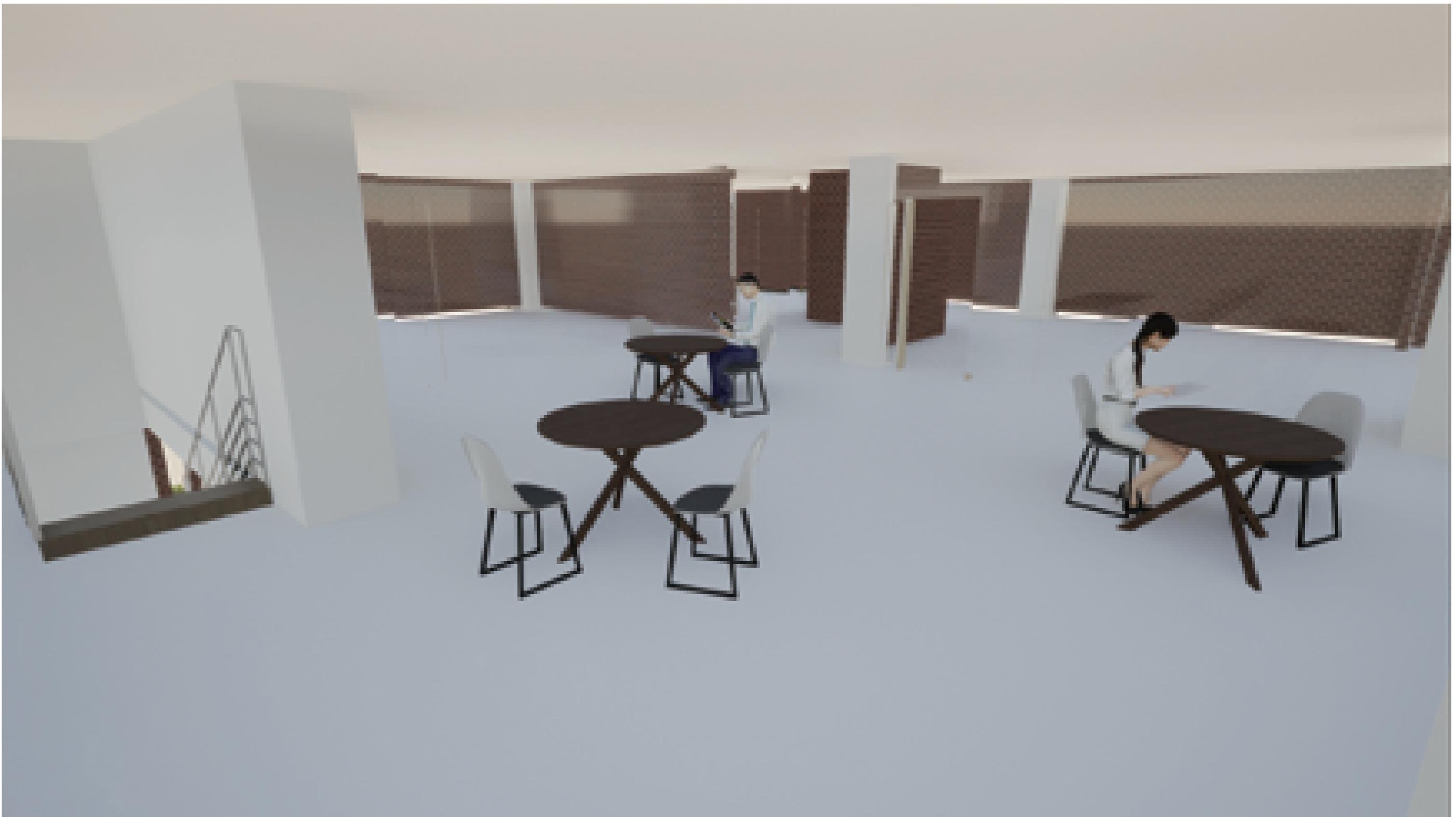
カフェ棟の屋根を芝生にし、真ん中に水を張る
スラブを半透明にすることで下のカフェ席に水の
揺らめきを感じさせる



④ 学習スペースから2階ギャラリーを見る
別棟かつ入れない空間だが、離れていても芸術と
交わっている空間



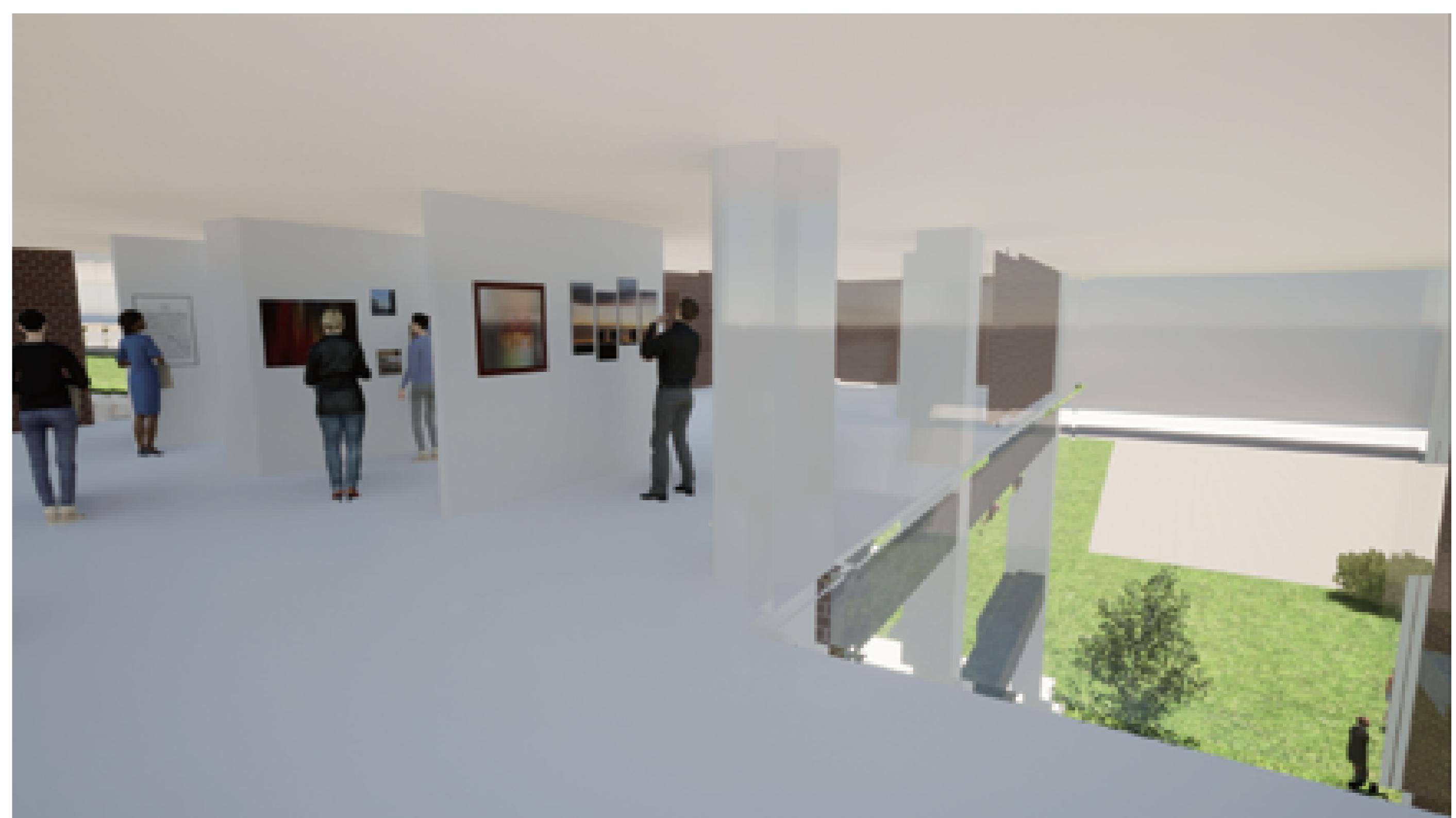
多目的室と市民ギャラリーを設けて多くの世代の人
が訪れる空間を作る
図書館から入り、1階2階では繋がっていなかった
棟同士が交わる



三階平面図 1/200



カフェ側の棟の屋根に芝生と水を
張り、自然と建物の交わりを表現
した。1階の屋根は上に上がるこ
とができる、人々の交流の場にもな
る。自然豊かな岡崎市ならではの
交流の場になることを期待する。



⑥ 市民ギャラリーと自然を見る
人と自然と芸術が交わる空間